

コーディネーターだより

令和7年7月
八代支援学校
文責 橋本

明日からいよいよ夏休みに入ります。暑い日が続きますが、体調に気をつけて有意義な夏休みにしてほしいと思います。

さて、今回は、今年度八代支援学校で教職をスタートさせた3名の先生に1学期を振り返っての感想や特別支援学校の教師を目指した理由などを書いていただきました。

星子 太志先生（小学部6年担任）

私が特別支援学校の教師を目指した理由は、父が特別支援学校の教師として子供と接する姿を小さい頃から見てきたからです。実際に教師として子供と接する毎日はとても楽しくて子供たちと共に学び、体を動かし、成長していく日々でとても充実しています。

周りの先生からは、子供をやる気にする言葉かけや子供が「できた！」と達成感を味わうことのできる課題設定の仕方などを学んでいます。

宮崎 瞳先生（小学部4年担任）

私は、この学校に勤めるまで専門学校で保育を学んだ上で、その専門学校が連携している大学に3年次編入して小学校教諭1種免許、養護教諭の免許を取得しました。

取得した理由としては、「子供が好きだ」という強い思いが一番でしたが、実習等で子供たちと関わる上で特別支援教育に興味をもち、特別支援学校を希望してこの学校に勤務することになりました。

初めは、不安でしたが八代支援学校の子供たちと出会い、言葉や感情、可能性などという目に見えない大切なことをたくさん学んでいます。

周りの先生方は、一人一人の児童理解をしっかりとされており、児童への関わり方や、指導についてなど様々な視点から学んでいます。特に指導に関しては、通常学級での経験しかなく、伝え方や児童の主体性を伸ばす方法が曖昧でしたが、児童一人一人、「自分にできる表現の方法」で前に出る場を作ることが児童の主体性を伸ばすことにつながることを学びました。

八代支援学校の児童は、自分から手を挙げて発言する児童が多く、これは今述べた「できること」で様々な機会に発表することで自信につながっているからではないかと強く感じています。

今後も日々の学びに感謝し、教師としての大切な思いを大切にして努めていきたいと思います。

畠野 日菜先生（小学部1年担任）

初めての教員生活ということで、不慣れで十分でない点もありますが、八代支援学校にはベテランの尊敬できる先生方が多いため、先輩教師にたくさん支えられながら、忙しくも楽しいあつという間の1学期を過ごすことができました。

1学期に一番印象に残っていることは、1年生の成長ぶりです。1年生9名は、初めての学校生活ですが1学期のたった3ヶ月の間にできることがとても増えました。友達の名前を覚えて呼べるようになった子、一人でトイレに行けるようになった子、友達を「遊ぼう」と誘って一緒に遊べるようになった子等々。そんな伸びしろいっぱい、頑張り屋さんな1年生に負けないように私も頑張ります。

これからも、3名の先生を学校をあげて応援・サポートしていきたいと思います。1学期お疲れ様でした。2学期の始業式で、子供たちや先生方と笑顔で会えることを楽しみにしています。